

大隈先生、福井先生、初瀬先生、三井先生の ご退職に寄せて

法学部長 南 野 佳 代

2011年4月に開設された法学部は、今年度で7年目を迎えました。この間、2015年4月には法学研究科を開設し、学部カリキュラムも改定しました。今年度はさらなる発展を目指して、2018年度からの法学部入学定員増に備えてカリキュラムの一部改定、学生の声に応じて縦のつながりを紡ぐピア・サポートの制度化などに取り組んだほか、大学全体のカリキュラム改定に合わせた2019年度からの新カリキュラム策定も行いました。これは法学部の教員の尽力、学生の積極的な参加、そして大学の支援なくしてはなしえなかったことです。ことに、まだ7年目の「若い」教員組織においては、この年度末に定年退職なさる先生方の、教育と学部運営両面においての、豊かなご経験を踏まえたご指導とご協力とがどれほど貴重なものであったことか、学部のメンバーそれぞれが心に刻んでいるところでしょう。

先生方は研究者として華々しいご業績を積んでおられますが、紙幅の都合上ここでは、先生方の本学ご着任後の、主に教育面でのご貢献について、誠に僭越ながら簡単にご紹介させていただき、記憶に留めておきたいと思います。

大隈義和先生は、開設2年目の2012年に本学部教授としてご着任されましたが、開設準備の段階から多くのご助力をいただきました。学部では憲法、情報法、研究科では人権論総論、公共法特論Ⅰという中心科目をご担当になり、研究科開設準備においては指導的役割を果たしてくださり、研究科委員長を2年間お務めくださいました。2016年の法学研究科と韓国女性政

策研究院との学術交流協定締結においては、準備交渉のため訪韓くださっただけでなく、締結記念式典にも格調高い手書きの式辞をご用意くださいました。研究院長が非常に感銘を受けておられ、法学研究科は数ある協定締結機関において別格となったと思います。大隈先生の誠実さは、法学部に品格を授けて下さったと思います。

福井厚先生も、開設2年目の2012年の本学部に教授としてご着任されました。開設準備の段階から、卒業生の進路についてのご意見をいただきました。学部では刑事訴訟法、裁判制度論、2015年から2017年は法学入門、研究科では刑事法特論Ⅱをご担当くださいました。課外においても法曹を志す学生のために、現役法曹を招いての講演会、多くのロースクールが来校しての進学説明会、そして入学試験対策の企画運営など、大学に働きかけることも含めて、獅子奮迅のご活躍でした。法曹になった卒業生が本学部に教えるに戻ってくることを目指して、本気で実現しようとなさる情熱は、学生にとって何よりの励ましであったと思います。

初瀬龍平先生は、2001年に本学現代社会学部に教授としてご着任され、国際関係論を中心に多くの学生をご指導されただけでなく、現代社会学部長も務められました。法学部では、客員教授として、国際人権論、国際関係論、研究科では国際人権論特論をご担当くださいました。法学部設置準備にあたっては中心的な役割を、初代学部長である立石二六先生と二人三脚で果たされ、また、研究科開設準備においても、多大なご助力を賜りました。法学部開設のきっかけをご披露しますと、現代社会学部内での改革の方向性を探る会議においての、初瀬先生の「女の子にとって法学部は夢があるよね」とのスケールの大きなご発言によって、大学は法学部設置申請へと大きく舵を切ったのでした。まさに、法学部の父だと思います。

三井誠先生は、2011年の法学部開設時に客員教授としてご着任され、刑事政策、模擬裁判をご担当くださり、研究科においては、刑事司法特論をご担当くださいました。学部生に模擬裁判を経験させることは、三井先生であ

ればこそ実現できたと思います。三井先生の幅広く深い専門性に基づく、温厚でありながら鋭さのあるユーモアが混じる魅力的なご講義とリアリティの理解を重んじて校外学習を取り入れた授業は、学生に生涯にわたって記憶に残るものを与えてくださったと思います。また、教員にも事務職員にも気さくに接して下さり、ご無理なお願いも快く引き受けてくださいました。

先生方への感謝と尊敬を胸に、誠実さと情熱をもって、夢を実現する意思と現実を見極める確かな知性を備えた学生を育てるよう、わたしたちは努力を重ねていきたいと思います。

末筆ながら、先生方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

